

神奈川県横須賀市 市立中学校・高校へのWBGT計測システム導入

- 従来、教職員は活動場所に行き、熱中症指数計を用いて手動でWBGTの実測・記録を行っていたが、このたび「熱中症予防対策システム」を導入し、WBGTの自動計測、常時監視を実現した。
- システム導入により、全教職員がどこにいても（学校、自宅等）、PC端末や個人端末から活動場所のWBGTをリアルタイムで確認できるようになり、生徒の見守り体制が強化され、健康安全の確保に繋がった。
- さらに、教職員による計測、記録の手間が削減され、教職員の負担軽減に繋がった。

【システム概要】

熱中症予防対策システム

WBGT（暑さ指数※）をセンサーで自動計測し、クラウド上にデータを保存することで、任意の場所で、常時、WBGT値を確認することを可能とするシステム

屋内センサーは簡単に設置可能な無線・電池レスデバイス

※WBGT（暑さ指数）
熱中症の危険度を判断するための暑さ指数で、Wet Bulb Globe Temperatureの略称。
気温、湿度、輻射熱を総合的に評価した指標で、熱中症予防の指針として用いられる。



▲WBGT値表示モニター(下駄箱)



▲データ受信機



▲屋内センサー



▲屋外用WBGT計測器

■苦労した点

- ・屋外センサーの設置にあたり、活動場所全体のWBGTをより正確に測定できる代表観測地点を決定するため、各学校においてきめ細かな現地調査を行ったこと。

■工夫した点

- ・各学校で計測したWBGTが、その日に初めて31を越えた時点で、自動的に注意喚起メールを当該校に送信する仕組みを導入したこと。
「横須賀市立学校熱中症予防ガイドライン」に本システムの運用方法を明記し、学校でのWBGTに応じた対応等の安全対策をより明確にしたこと。